

序

古代以来、静かな田園地帯として保存され眠り続けてきた平城京跡も、近年の開発の進展によって安眠を妨げられ、破壊の危機に直面するようになってきている。こうした開発の進展にともなって、京内の発掘調査件数も年々増加しつつあり、当研究所が行なった調査だけで昭和58年度には年間36ヶ所の多きに達している。

今回発掘調査を行なった地域は、中世の古絵図などから称徳天皇山荘跡と推定される地に当たり、池と中島が現存し一部が史跡に指定されている。しかしその実態は明らかでなく、周辺をより広く発掘調査する必要性とその保存・整備を早急に考えねばならない土地である。指定地の西北に接した場所の今回の発掘調査の結果、既指定地と一体の施設と考えられる奈良時代後半に属する多数の掘立柱建物と、平安時代初頭の火葬墓を検出し、豊富な資料を得ることができた。

調査に際して関係各位から多大の御協力を賜わった。ここに厚く御礼申し上げる。また今後さらに増え続けるであろう京内遺跡の発掘調査および保存・整備に関して忌憚のない御批判と、一層の御鞭撻を賜れば幸いである。

昭和59年12月

奈良国立文化財研究所長

坪井 清足